

(5) 調査結果から

ア 調査した件数

モニターの皆様が調査した商品は、全部で890個でした。

その内訳を包装形態別で見ると、密封商品が453個（50.9%）、面前計量商品・パック商品は437個（49.1%）という結果でした。

分類別に見ると、密封商品では調理食品が87個（19.2%）で最も多く、次いで嗜好品が84個（18.5%）の順でした。面前計量・パック商品では食肉類が224個（51.3%）、魚介類が83個（19.0%）の順でした。

イ 過不足の結果

今回の調査件数を過不足で見ると、調査した全商品（890個）のうち、内容量が正量であったものは全体の85.3%という結果でした。

また、内容量が量目公差の範囲を超えて不足していたもの（以下、「不足」といいます。）は全体の8.1%を占め、内容量が表記量を大きく上回っていた過量のもの（以下、「過量」といいます。）は全体の6.6%という結果でした。

ウ 包装形態別の過不足の結果

・密封商品

調査した密封商品（453個）のうち、内容量が正量であったものは396個で87.4%、不足は13個で2.9%、過量は44個で9.7%でした。

・面前計量商品・パック商品

調査した面前計量商品・パック商品（437個）のうち、内容量が正量であったものは363個で83.1%、不足は59個で13.5%、過量は15個で3.4%でした。

・包装形態別の過不足の比較

包装形態別の過不足を比較すると、不足では、面前計量商品・パック商品が密封商品に比べてその割合が高く、過量では反対に密封商品の割合が高いという結果でした。